

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

海外工業団地に中小企業が進出し国内を成長せる

1. 総合商社の海外工業団地事業が空前の活況に沸いている。「六重苦」を背景にした中小企業の海外進出が、それに拍車をかける。利益還流によって、国内外ともに成長を促す枠組みが欠かせない。経営基盤が弱い中小企業にとって、足元の事業環境は目に見えて悪化の一途をたどっている。活路を外に見いだした中で、まさしく「渡りに船」となったのが、商社の工業団地事業だった。
(注)「六重苦」とは円高、高水準の法人税、電力制限、行きすぎた環境対策、貿易自由化の遅れ、厳しい労働規制を指す。
2. 独自の高い技術力を売り物としてきた日本の中小企業も、日本からの輸出ではなく、海外進出によるビジネスモデルの再構築を迫られている。ベトナム・ハノイで住商が開発した工業団地に入居する秋田精工（秋田県由利本庄市）は、「国内では消耗戦の波にのまれているが、海外で稼いで利益を還流させるモデルを実現できれば、国内にとってもまだ成長の道はある」と見る。
3. 福井県立大学の中沢孝夫・特任教授は「海外に出て 3 年もすれば、利益配当や技術指導料が日本の本社にもたらされるようになる」「グローバル化による中小企業の活性化が、地域再生、さらには日本再生につながる」と訴える。
(参考:「日経ビジネス」2012 年 2 月 6 日号)

街の活性化策

地産池消のすすめ

1. 街角で見かける無人パーキング。駐車台数が 5 年間で 2 倍に膨らんだ。市街地の廃業店舗が次々に、無人パーキングへと変わっているせいだ。なすすべもなく廃業し、無人パーキングが増えていく。地場商業がくずれていくと、購買力の域内還流システムが弱まり、地域経済が衰弱する。逆に、地元の消費者が地元商店で買い物すれば、地元の雇用・投資拡大に資金が流れ、地域は強くなる。
2. 東日本大震災以降、東北地方の「地産地消」に協力しようという動きが広まっている。消費を振り向けることが被災者を助ける、という発想だ。これを延長させると、自分の消費を誰かの生活を助けるといったイメージが膨らみ、多くの人々の消費行動を変えることになるかもしれない。企業の社会的貢献（CSR）にも通じる活動だ。
(参考:「週刊東洋経済」2012 年 2 月 11 日号)

新規成長分野

全国でプラネタリウムが開館ラッシュ

1. 何かとストレスの多い現代社会。自分なりの解消法を持ちたいものだが、満天の星を見上げるという処方箋はいかがだろう。星が見えにくい都会では、「プラネタリウム」という文明の利器がある。ここ数年、全国でプラネタリウムの開館ラッシュだ。2010 年は大規模改装を含めた開館数が 10 館と、1995 年以降で最多となった。
2. 今年 5 月 22 日に開業する東京、スカイツリーの併設施設の中にも、プラネタリウムが完成。「コニカミノルタプラネタリウム天空 in 東京スカイツリータウン」だ。ドーム直径 18m で、客席は 212 席。子供の頃に見た、しし座流星群の出現などの思い出をプラネタリウムの 360 度のパノラマで再現し、宇宙を旅する気分になるのもいいものである。
(参考:「野村週報」2012 年 3 月 19 日号)

古典に学ぶ

学ぶことで、余計な心配は消えてしまう

「精神的のくだらぬ心配は健康上大害がある。これを除くには学問を立脚地として、精神修養の功を積むほかない」

解説: 無駄な心配をしてくよくよ悩むのは、体に非常によくはない。そんな気弱さを克服するには、学ぶことによって、精神を鍛え、深めるしかない。
(参考: 渋澤 健「渋沢栄一 100 の訓言」: 日経ビジネス人文庫)